

## 新しい原子力ビジネスの創出に向けた コラボレーションの加速を

株式会社 IHI 理事 原子力 SBU 長 大野 勇  
Oono Isamu



IIC の皆さん、日頃から我々原子力 SBU<sup>※</sup> の検査・計測を中心とするさまざまな分野で多大な貢献をいただき、感謝申し上げます。IIC の皆さんには我々原子力部門の機能の一部を担当していただき、原子力 SBU にとって欠かせない存在です。原子力事業の創世期より共に励みあい、本当に長い歴史を築いてきました。工場・原子力発電所での検査・品質管理業務、配管構造解析を中心とした各種解析業務、原燃関係での装置開発とさまざまな分析・試験、SCC・軽水炉材料の材料試験・分析など限りがありません。私自身も、新入社員の時の圧力容器破壊試験、六ヶ所ガラス固化体貯蔵施設の除熱性能改造工事の際の冷却性能モデル試験などで大変お世話になりました。まさに IIC と二人三脚で歩んできた実感しています。

さて、現在の国内の原子力事業を取り巻く環境は、皆さんご存知の通り、厳しい状況が続いています。再稼働できた発電所は 2016 年 12 月現在で 3 基のみで、それも加圧水型原子炉に限られており、我々が手掛けた沸騰水型原子炉では現時点で再稼働の目途がたっていません。国民の原子力に

対する厳しい目にも変化がなく、英国や米国の選挙で見られたポピュリズムが国内で広がる気配も感じられます。一方で、再稼働を目指し、新規基準に適合した改造工事は各発電所で着実に進んでいます。国民の信頼を取り戻すために我々ができることは、安全で高品質な製品・サービスを提供する、この 1 点につきます。そのために IIC が担う役割は非常に大きいものがあります。品質については、不適合の流出防止は IHI における製品サービスでの作り込みの時点で確実に言うことはもちろんのこと、その上で検査ステージでどんなささいなミスも見逃さないことが重要なことは言を俟ちません。ここは IHI、IIC とともに愚直に実施していきましょう。また検査・計測記録の信憑性・トレーサビリティの確保もしかりです。より信頼を高めるための努力・研鑽をぜひよろしくお願い致します。

福島第 1 をはじめ今後国内では除染廃炉に向けた動きが着実に進んでいきます。その中で私が着目している技術の一つが IIC のレーザー除染技術です。IHI では液体窒素を使った NitroJet<sup>®</sup> という除染技術を有しており、レーザー除染技術はある

意味これに競合する技術ではありますが、私はこれらを融合しそれぞれの長所短所を補い合って、お客様へソリューションを提供することが可能なのではと考えています。またこれ以外にもお互いが保有する技術、今後開発する技術の融合を図ることで除染廃炉ビジネスへ展開できる可能性は非常に大きいと考えています。ここは一步踏み込んだ取り組みになりますが、ぜひニーズ調査から技術開発、ビジネス創出まで、コラボレーションを図りましょう。

常日頃 IIC REVIEW を拝見していて、IIC の技術開発力の高さに感服しています。検査・計測技術を常に高度化しようという努力は素晴らしいです。原子力 SBU でも昨年新しい検査技術として手動探傷データ記録装置 ARMUT® を開発し、現

在 IHI Southwest Technologies, Inc (ISwT) を通じて米国内での事業展開を図っています。ISI (In-Service Inspection) 技術の分野でも IIC とのコラボレーションが可能ではないかと考えています。原子力発電所の信頼性への要求には上限がありません。つまり大きな市場があるということです。IT、IoT を組み合わせて、お客様へより高付加価値、低価格のサービスが提供できるビジネス創出を目指しましょう。

以上、今思いつくだけでもこのようなコラボレーションの可能性が 있습니다。より一層の協力関係を構築し、困難な状況を打破していきましょう！

※ SBU : Strategic Business Unit (戦略的事業単位) の略称であり、組織名称とする。